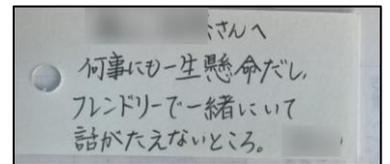


「修学旅行にて」

先月の修学旅行では、いろんな生徒の姿を見ることができました。フェリーでかもめにやるために皆が投げたえびせんを最後に拾っている生徒、班活動で最後まで班長としての責任を全うしようと頑張った生徒、食事後の食器の片付けをきちんとやっていた生徒、素晴らしい代表挨拶をしっかりと発表できた生徒…本当に生徒たちの普段見られない「いいところ」を見ることができました。集合時刻の厳守、ホテルでの態度、バスの中での様子…餌肥中2年生は本当にいい生徒たちでした。

「人権と平和について考える週間」

12月5日から「人権と平和について考える週間」として様々な取組を行ないました。各学級でレインボープランに関する授業を、生徒会主催で「いいところめがね」として、自分のいいところを友達にみつけてもらったり、いろんな人のいいところ見つけたりする取組を行いました。とてもいい取組みで、たくさんのいいところを見つけてくれました。職員同士もやってみました。



「やっぱり嫌な長距離走」

12月16日は校内ロードレース・駅伝大会がありました。私(校長)自身、長距離走は大嫌いだったので、教師になって生徒に教えるときに、何とか楽しみながら頑張らせたいと思い、3人組(走り隊～走る人 記録隊～ラップタイムを記録する人 励まし隊～記録を聞いて寄り添ってアドバイスをする人)を作り、「気がついたら1500m」と名付けて、自分のペースを設定し、3人協力して楽しく走れる授業を考えました。しかし、生徒たちからは「気がついたらまだ600m」とか「気が狂いそうな1500m」とか言われ、やはり「知らぬ間に走っちゃった」とはほど遠い授業でした。本校にも、長距離走を好きではない生徒がいたと思いますが、本番では授業で習った長距離を走ることの意味やペース配分の大切さ、達成感などを感じながら、自分の設定したタイムに近づけるように頑張っていました。さらに、声を枯らして他の生徒たちを応援する姿は圧巻でした。 ちなみに私は今でも、苦手です…

「教育四訓」

この「教育四訓」は山口県の教育者が長年の教育経験を踏まえてまとめたものです。有名なので一度、目にされたことがあるかもしれません。これは、「子離れできない親」についての話題の時によく出る言葉ですが、最近のいじめや中学生の事故などの痛ましい事件を目にする度、中学生は「目も心も離してはならないこともあるな」とつくづく思います。難しいことですが生徒の言う「大丈夫」が本当に大丈夫なのか見抜ける目や感じる心を学校も家庭でも常に持つておかねばならないことを痛感します。

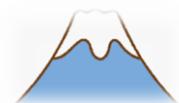
- 1、乳児はしっかり肌を離すな
- 2、幼児は肌を離せ、手を離すな
- 3、少年は手を離せ、目を離すな
- 4、青年は目を離せ、心を離すな

「一年を振り返る 今年の漢字」

今年もあとわずかになりました。先日京都市の清水寺で、日本漢字能力検定協会から今年一年の世相を表す漢字「戦」が発表されました。年末は何かと慌ただしい時期ですが、一年を振り返る大切な節目のときでもあります。みなさんにとって「今年の漢字」はどんな文字でしたか。



餌肥中学校の今年一年を振り返ると、新型コロナウイルスについては少しずつ規制が緩和された中、与えられた時間を有効に使って、3年生を中心とした体育大会や合唱・演奏・展示を頑張った文化発表会、数多く県大会に出場した部活動、餌肥城下まつりのボランティア活動、数々の文化作品の表彰など文武に渡って活躍する生徒とそれをサポートする職員の姿がありました。その頑張りを讃えて、今年の漢字は自信をもって「成」としたいと思います。さあ、それぞれが1年を振り返り、来年の「卯年」も充実した一年にしていきましょう。



「校長のひとりごと」

先日、一般の先生方に交じって勉強会に行ってきました。そこで「富士山を動かすにはどうしますか」と聞かれました。実際にマイクロソフト社の入社試験でのビル・ゲイツ氏の問いだそうです。答えはじっくり考えていただくとして、ここで「地頭力」というワードが出てきました。簡単に言うと思考能力・・・つまり単に知識として知っているだけで無く、それを使って解決していく力のことです。このほか、ある大手の会社では「1年間に日本人は何個、鍋を使うか？」なんて問題も出ています。正しい答えというよりも、考えていく道筋を重要視しているようです。コミュニケーション力とともに地頭力も求められる昨今です。